

洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内
洛友会
〒606-8501
京都市左京区吉田本町
075-753-5270
www.rakuyukai.org

移动通信の世代はどこまで上がるか？

東京支部長 尾上 誠蔵 (昭55年卒)



私は令和3年6月から1年間、

東京支部長を務めて参りました。COVID-19で制約がある上に個人的事情も重なり支部活動は心苦しい状況であります。同窓のネットワークのありがたさは身に染みており、しっかりと引き継いで、永く続くよう支部長退任後も活動を支援して参ります。

私自身の紹介をさせていただくと、昭和55年学部卒、57年修士卒で、電電公社に入社しました。その後、民営化や分社化で組織的に



は大きく変わりましたが、一貫して移动通信の研究開発に携わって来ました。第一世代のアナログセルラー方式から最近の第五世代5Gまで関わってきた経緯は、本会報第252号(平成28年4月15日)「1」の会員寄稿で紹介させていただいています。

さて、標題のテーマの話をしていただきます。今までに巻頭言を依頼される機会が何度かあり、シリーズものとして「移动通信のデータ速度はどこまで上がるか？」のテーマで書いてきました。2004年のドコモテクニカルジャーナルVol.12 No.2の巻頭言が始まりで、京都大学電気関係教室技術情報雑誌CUE第41号(2019年3月)「2」の巻頭言でパート4、情報処理学会の情報

処理Vol.61 No.1(2020年1月)「3」の巻頭コラムがパート5でした。

移动通信のデータ速度に関して、2004年当時は未だ384kbpsで、1T(テラ)bpsは将来とも無理という気持ちでパート1を書いたが、今日では1G(ギガ)bpsを超えるところまで来ており、2030年代、つまり2039年までには1Tbpsに達する可能性はある、とパート5で要約しています。

この間、移动通信の世代は第一世代から第五世代まで凡そ十年毎に新たな世代のシステムが登場し、既に第六世代の議論が始まっています。ここまで来るとこの先いつたい移动通信の世代はどこまで上がるか?という疑問が湧いてきます。パート5では、情報処理学会の会誌だったこともあり、コンピュータの世代との比較で論じましたが、最後に「移动通信の世代はどこまで上がるか?新たなテーマである」と結びましたので、今回の巻頭言から、このタイトルにさせていただきます。

実際、数年前から私自身がこの疑問を抱いており、2019年にブルックリンで開催されたあるイベントの基調講演で壇上から聴衆

に質問を投げかけてみました。「10G」という声が返ってきたので、10、いい数字ですね、とコメントしました。なぜ、いい数字とコメントしたかという、単に偶数だったからです。私が発見した(というより勝手に提唱している)移动通信世代の法則の第二法則は「偶数世代のみ大成功の法則」なので、偶数は世代の番号としての数字なのです。移动通信の世代の法則については、パート4のCUE第41号で解説しています。

また別の機会に、あるベンダーのプライベートイベントで業界の専門家のパネル講演があったので、壇上の専門家に同じ質問をしてみました。そのパネルでは明確な回答はありませんでしたが、会話はコーヒープレイクで続き、回答は11Gでした。あなたは私の第二法則を知らないのか、とか議論の末、回答は12Gに修正されました。たった二つの回答ですが、全く別の場面で10や11と近い数字だったのは興味深いと思います。結論として、世代番号の更新は10Gや12Gまでは続くかと仮定しています。

私が最近の世代議論で気になるのは、元々は新たな技術コンセプトの登場によって世代が進化して

きたのに対し、最近ではマーケティングやブランディングの目的で世代番号の更新が加速し、よく見ると約十年毎という周期も世代を追うごとに短くなる傾向にあるということ。2000年代初頭の4G標準化が始まる時期には4Gという言葉はあまり好まれず、4G標準化を始めるように業界のプレイヤーたちを説得するのに苦労した状況から、2010年代初期に同様だった5Gが2010年代半ばには一種の5Gブームになって状況が変わりました。標準化どころか商用サービス開始まで前倒しされ、技術進化の追求という意味ではいいのですが、業界に混乱もありました。第六世代の議論は5Gサービス開始前から始まっており、新しい世代への期待はますます高まっています。高まる期待をいい機会として活かすためにも真に意味のある持続可能な世代進化にしたいものです。

この話は、全く異なる展開で続きます。ある時、元上司(究極の上司)に、君はいつまで標準化にかかわっているのか?標準化は必要なのか?と標準化の必要性に対する疑問を投げかけられました。その時は、必要に決まっています、

何て質問だろう、と思い、世界がつながるために当然必要です、と即答しました。実は、冒頭の私の個人的事情とは、私は今国際選挙に立候補しています。ITU(国際電気通信連合)の電気通信標準化局長のポストで、ここに書くべきか迷いましたが、事実として報告します。(これで忙しくて支部活動に支障があるというのは言訳です。)今説明した会話はこの立候補のずいぶん前ですが、当然標準化は必要と思います。

しかし、後日、ふと考えました。今、ソフトウェア化がどんどん進んでいて、ネットワークと端末が自動的にプロトコルを折衝決定し、ソフトウェア更新で自身の処理やインタフェースを変更すれば、標準規格がなくてもつながる時代が来るかもしれない。現在でも端末能力の交渉やプロトコルのダウンロードもあるわけで部分的には既に行われているとも言えます。ただ、現状の技術レベルでは、ソフトウェア処理で全てを行うことは可能であっても、消費電力やコストの観点で、最適解ではありません。特に無線信号処理や高速データ伝送処理のように処理負荷が膨大な処理はハードウェアに頼らないと消費電力やコストが増

加してしまいます。無線信号処理は周波数利用効率を追求するため処理限界まで処理を実行し、ハードが進化して能力に余裕ができればそれを新たな処理に使って周波数利用効率を高めるという歴史の繰り返しで、無線技術の進化を止めない限り全ソフトウェア処理が最適解になる日は永遠に来ないかもしれません。しかし、処理量が増えても消費電力やコストの犠牲が殆どない技術があれば可能になります。例えば、回路が全て光化され、その回路が汎用になって安価になるなど。今は無理でも、10Gや12Gの時代にはそうなるかもしれない、とふと思ったわけです。

標準化が必要ない世界が理想かというところにはいろいろ議論すべき点があるとも思います。利用者の観点からも勝手につながるのには便利なようで、どうつながっているのかわからない不安や、意図しないつながり方になる不便があるかもしれません。社会全体で理想となるには何らかの方針の提示が必要で姿を変えた標準化が必要になります。標準化は技術の大きな変化に対応して、そのやり方も含めて変化し進化し続けなければならないというのが私のここでのメッセージです。2030年まで

にはそういう状況になることは無いにしても、2050年頃には実現されると希望的に予測し、その前の2040年ぐらいにはそういう標準化のあり方の議論が必要になるだろうと想定しています。最後は少し空想科学的な話になりましたが、半分は冗談ではなく真剣に考えたことです。

(参考リンク)

- [1] 洛友会会報第252号平成28年4月15日 会員寄稿「移动通信技術の世代進化-1Gから5Gまで」[Raku252 \(kyoto-u.ac.jp\)](https://www.see.t.kyoto-u.ac.jp/ja/information/540c7a934f1a6d1d53cb4f1a/raku252)
<https://www.see.t.kyoto-u.ac.jp/ja/information/540c7a934f1a6d1d53cb4f1a/raku252>
- [2] 京都大学電気関係教室技術情報雑誌CUE第41号2019年3月 巻頭言「移动通信のデータ速度はどこまで上がるか? (パート4)」
[cue41coarse\(kyoto-u.ac.jp\)](https://www.see.t.kyoto-u.ac.jp/ja/information/cue41coarse)
<https://www.see.t.kyoto-u.ac.jp/ja/information/cue41coarse>
- [3] 情報処理学会情報処理Vol.61 No.1 Jan. 2020 「移动通信のデータ速度はどこまで上がるか? (パート5)」
[IPSJ-MGN610101.pdf](https://www.ipsj.or.jp/magazine/9f9eag0000000pfzm-at/IPSJ-MGN610101.pdf)
<https://www.ipsj.or.jp/magazine/9f9eag0000000pfzm-at/IPSJ-MGN610101.pdf>



本部だより

洛友会本部役員会報告

令和4年度役員会は、去る5月14日(土)正午より、京都タワーホテルにて、荒木顧問、松本会長、3名の副会長、9支部長、本部役員合計22名の出席を得て、ハイブリッド形式にて開催されました。初めてのハイブリッド開催が無事進められるのかの不安も抱えつつ、パソコンのみならずハイブリッド対応のための機器を持ち込み、接続テストも無事終えてひと安心して昼食に移った矢先に、早速恐れていたトラブルに見舞われました。つい今しがた接続を確認したばかりの回線が切れてしまったというもので、再度あれやこれやと各種配線の接続等を確認しても原因がつかめない大変困った事態となりました。結果的には会場のホテル側のネットワークの問題であったのですが、昼休みの時間だったこともあってかホテル側担当者がすぐに対応しにきてくれた状況がしばらく続きました。その一方で、ホテル会場でのドタバタ状態をご存じないネットワーク越しの参加者の方々は、自分の方

の問題で接続が切れたのではないかと不安に思っておられるに違いないと考え、何とか状況をお伝えしたいと思うのですが、そのこと自体が簡単にはできない状況になっておりました。応急的にホテルの回線をあきらめて手持ちのモバイル機器で何とか接続し直し、ネットワーク越しの参加者によりやうく状況をお知らせするなどしていたところへホテルの担当者が来られて、ホテル側の問題と判明するとともに、それを修正いただきました。その間、30分もの時間をむだにつぶしてしまう羽目となりました。なお、持ち込んだ機器の設定等の都合上、会場側でパソコンを2台利用してのハイブリッド開催を予定しておりましたので、回復したホテル側回線でもう一台のパソコンも接続しました。ただし、応急的にモバイル回線で接続した方のパソコンをホテル側回線で接続し直すなどの操作にさらに時間を費やすことはできないとの判断の結果、接続形態自体は予定していたものとは異なるいびつな形になりました。それでもハイブリッド開催自体は、基本的には予定していた形でなんとか実施することができました。もともと、持ち込んだ機器が部屋の広さに比し

て若干非力であった面は否めないところがあるようで、会場での着席位置など次第では、とくにネットワーク越しの参加者には聞き苦しいところが生じてしまったようにも思われます。いずれにしましても、多大な時間をつぶしてしまいう中、松本会長の開会挨拶もままならないドタバタのまま萩原事務局長の司会で役員会が何とか始まるという状況でした。こういった余談の方が長いような報告になっておりますが、初めてのハイブリッド開催ということもあって様子をお伝えするのも悪くないかと考えた次第です。

役員会ではまず、令和3年度事業報告と同決算、令和4年度事業計画と同予算案、役員改選がそれぞれ審議承認され、総会に提案されることになりました。なお、本年度は定例の役員改選の年度にはあたりませんが、本部役員に関して、長らくお務めいただいた佐藤亨幹事長の退任と、北野正雄幹事にその後任をお務めいただくことを承認いただきました。加えて、任期を1年としておられる関西支部の支部長を武知秀行様にお務めいただく交代を行うこと、また東京支部について同じ理由で、また四国支部でも長らくお務めいた

いたという事情で、支部総会にて支部長の交代予定であることの報告がなされました。さらに、3名の推薦会員が承認され、洛友会報の原稿依頼も承認されました。もう一点、これまで3年ごとに発行してまいりました冊子体としての洛友会名簿につきましては、諸般の事情により、本年発行のものを最後とせざるを得ず、このことに關しても総会への提案の承認を得ました。

引き続き、支部活動の状況が各支部から紹介され、意見交換を行いました。コロナ禍にあって活動が低調な状況が続いている様子があ一方、少しずつ対面やハイブリッドのイベントや支部総会の開催の動きがあることが報告されました。その一方で、都市部での感染の増減状況が必ずしも全国の状況と一致しない中、対面開催を予定していた支部総会を残念ながらオンライン開催や書面によるものに切り替える判断をされたケースの報告もありました。また、会員の状況把握に関することも含めて、支部活動の運営上の苦労やそれに対応した工夫や変革の方向性などが話題となり、意見交換がなされました。各々の支部には支部活動費が交付されており、京都大

学全体の地域同窓会への協力や会員向けのさまざまなイベント開催を行うほか、若手会員の掘り起しや会費納入率の向上にも取り組んでいます。参加メンバーの固定化・高年齢化が悩みのひとつで、地方に転勤や移住した会員は是非参加をお願いします。また、会員の状況を把握する上で洛友会の電子的名簿のデータが適切にアップデイトされていることが今後ますます重要になってきます。どの支部に属しておられる方も是非一度、データの入力状況をご確認いただくようお願いいたします。

推薦会員

- ・(令和4年5月14日承認)
- ・稲垣 滋 教授
ネルギー理工学研究所
- ・(東北大 平10年博)
- ・衛藤 雄二郎 准教授
電子工学専攻
- ・(学習院大 平21年博)
- ・Marc A. Kastner 助教
通信情報システム専攻
(名古屋大 令2年博)

洛友会本部総会報告

令和4年度本部総会は5月14日

(土)午後、京都タワーホテルにおいて、関西支部総会に引き続き対面開催されました。会員49名の出席がありました。

松本会長の開会挨拶の後、萩原事務局長の司会で、令和3年度の事業報告と決算、令和4年度の事業計画と予算案、役員の変更がそれぞれ承認されました。また、冊子体としての洛友会名簿は、本年発行のものをもって最後とすることが承認されました。

続いて、事務局長により洛友会本部報告、松尾学科長により電気系教室の現況紹介がなされました。令和3年度の活動事業として、洛友会および電気系教室主催の先輩と学生との交流会や電気系教室懇話会の様子が紹介されました。とくに前者の交流会については、令和3年度の実施状況と周辺事情の分析を踏まえ、本年度以降、開催時期を11月祭の頃に変更することを含めた検討がなされていることが紹介されました。また、洛友会が後援しているエレクトロニクスサマーキャンプについて、コロナ対応の結果として3月にスプリングキャンプとして実施されたことと、参加している学生会員の活き活きとした様子などが紹介されました。さらに、WEB名簿管理

システムについても簡単に紹介されました。引き続き、現在の京都大学の吉田キャンパスと桂キャンパスの風景がそれぞれ紹介され、また、電気系教室の組織の変更や学生の就職状況などが報告されました。

役員の変更

令和4年度の役員は次の通りです。

- 顧問 昭41 荒木 光彦(現)
- 会長 昭40 松本 紘(現)
- 副会長 昭56 和田 修己
- (現・教室)
- 昭54 伊藤 八大(現)
- 昭55 三浦 良隆(現)
- 幹事 昭50 北野 正雄
- (新・幹事長)
- 昭57 野田 進(現)
- 昭59 萩原 朋道
- (現・事務局長)
- 昭61 松尾 哲司
- (新・学科長)
- 平16 博佐藤 高史(現)
- 昭41 竹原 壽良
- (現・工学系)
- 同窓会連絡会
- 会長)

会員寄稿

卒業から25年。

今思うこと

島田 茂樹
(平5年卒・関西支部)



私は平成7年に大学院を修了後、今に至るまでの25年間、住友電気工業という会社に勤めており、社内ではコンピュータシミュレーション手法(いわゆるCAE)を研究開発・活用して社内の問題解決を図る部門にいます。この会社は自動車部品、電力ケーブル、光ファイバー、スマホ部品、切削工具、橋梁の鉄筋、化合物半導体、他・・・と、何をやっている会社?と聞かれると少し回答に困るほどあれこれ手を出してまして、自然、CAEでサポートする側も、電気だけでなく機械、熱、流体、反応等、多分野の知識

が必要になります。そんな中、これまで何とかやってこれたのは、大学での日々のおかげだと思ふところがあり、感謝の意味も兼ねて文章を書いていきます。

そもそも地方の農家の息子の私が京大の電気系に進学することになったのは、ゲームをしたがために中学の時、「勉強のためパソコン(PC)が欲しい」と親にねだったことがきっかけ。ゲームのためにPCの素晴らしさを親へアピールし続け、結果、「とてもPCの勉強がしたい子」と認識され、さらに当時PC業界にいた叔父の「PCなら半導体。それなら京大の電気系!」とのお言葉で、元々は地元大学の農学部志望だったのに、設定に流されて京都大学へ。そこでバイトでオシロスコープ買うガチな同級生を見て、早々に「そこそこ無難に働いてお金を貯めたら、田舎に帰って農業を継ごう」などと考えておりました。こんな私が結局25年も会社を勤め続けられたのは、振り返って考えると研究室で先生方、先輩方の多様なキャラクターに触れ、影響を受けたことが良かったように思います。

私は当時、学部で石川順三先生、院で吉川潔先生の研究室お世話に

なりましたが、特に吉川先生は面白そうなことを思いつくと即実行する方で、学生にも色々提案してこられます。例えば、吉川研は当時としては先進的に学生に海外経験させる方針で、私も先生と一緒に中国に1週間ほど行って学会報告させてもらいましたが、その際の話。移動中の飛行機のCAさんとの名刺交換に始まり、中国滞在中も、怪しげな屋台の散髪屋を指さして「散髪してみたらどや?」とか、雲南料理店では「店のお姐さんと舞台上で踊ってきたらどや?」とか、台湾料理店では「蛇の生き血どや?」とか、次から次へと提案が私に舞い降りてきます。この時、散髪以外は実行。やってみると思いのほか楽しく、「面白そうなことはやらねば損」という一種のチャレンジ精神が自分生まれつきつけになったように思います。

私が社会に飛び出した97年は、ちょうど、10年で計算機の世界が数百倍まで高速化するCAEの黎明期でしたので、次々生まれる新技術を「面白そう」だから「やってみよう」と楽しんで実行する精神が養われてなければ付いていけなくなっていたかもしれません。今では私が若手に笑顔で冗談めか

しつつ無理目の提案をして反応を楽しむ日々。先生の本当に楽しそうな笑顔を思い出すに、同じように楽しんでいたのかも...と苦笑交じりに感謝しつつ、筆を執らせていただきました。



支部だより

四国支部

「研究講演会・意見交換会」報告

四国支部では平成25年より、秋季の休日を利用して四国内外の工場や文化施設等を訪問する「秋の見学会」を開催し、会員間の親睦を図ってまいりましたが、コロナ禍の影響で、近年は開催を自粛しておりました。また、同見学会に限らず、支部活動全般において、会員の住居の関係もあり、香川県高松市周辺の方の参加割合が大きく、他地域の会員に参加いただける機会が十分になかったのが現状でした。

こういった経緯から、令和3年11月28日(日)に、四国支部にてZoomを用いたweb講演会を開催しました。初回となった今回は、19名(支部会員の2割強)が参加し、愛媛大学大学院理工学研究所 電子情報工学専攻 神野雅文教授(平2年卒)に、自身の京都大学時代における研究や、現在の研究動向について講演いただきました。

同氏の卒業研究であった「レーザ誘雷」のほか、愛媛大学赴任後

の「放電光源」、現在の「プラズマライフサイエンス」と、当時の写真や時代背景を織り交ぜながら紹介されたため、専門外の分野の参加者も理解しやすく、楽しんで聴講することができました。

また、講演後は、Zoomのブレイクアウトルームを活用しての意見交換会を行いました。同交換会では、今回が初対面となる会員間での自己紹介から、近況報告、また至近で吉田キャンパスに赴いた際の土産話等で盛り上がり、あっという間に終会の時間となりました。

今回は初回開催ということでいろいろと試行的に進めてみましたが、今後、コロナの終息状況に関わらず、第2回、第3回と続けていければ幸いと考えております。今後もあり多くの皆さまにご参加いただけるよう、このような行事の開催を継続し、四国支部を盛り上げて行きたい

と思います。

※最後になりましたが、今回の「研究講演会・意見交換会」は、「学年クラス会・支部活動費等補助について」(令和元年6月30日)に基づく補助を受けて開催させていただきました。盛会のうちに終えることができ、厚く御礼申し上げます。

植原宣和(昭63年卒)記



関西支部総会報告

令和4年5月14日(土)、京都タワーホテルにおいて、関西支部総会が49名の参加を得て開催されました。

総会に先立ち、「コロナ禍と大学教育」と題して講演会を開催しました。講演会では、京大名誉教授の北野 正雄先生(昭和50年卒)より、新型コロナウイルスが猛威をふるう中、京大の取り組み状況を当時のエピソードを交えながら、大学教育について幅広くお話いただきました。参加者にとって大変興味深い講演会となりました。

支部総会は、藤岡総務幹事の司会のもと福田支部長のご挨拶で始まり、令和3年度行事・決算報告、令和4年度行事計画・予算編成、役員改選等が審議され満場一致で承認されました。また、今後の関西支部の運営方法について報告がありました。

- 令和4年度の新役員は、
- 支部長 武知 秀行 (昭和57年卒)
 - 副支部長 森 望 (昭和61年卒)
 - 総務幹事 藤岡 直人 (平成3年卒)
 - 会計幹事 村山 浩二 (平成3年卒)
- の各氏です。

支部総会に引き続き本部総会が開催され、総会終了後には懇親会が開催されました。洛友会会長の松本先生のご挨拶の後、乾杯のご発声をいただきました。懇親会中は終始和やかな歓談の場となり、楽しい一時を過ごすことができました。最後に洛友会顧問の荒木先生より締めのご挨拶をいただいで散会となりました。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底しながら3年ぶりの対面開催となりましたが、講演会や総会での活発な意見交換や懇親会でのお酒を酌み交わしながらの交流など、対面の良さを改めて実感できる総会となりました。

梯 靖弘(平成9年卒)記



九州支部総会報告

令和4年6月11日(土)、福岡市中央区のホテルニューオータニ博多にて、令和4年度九州支部総会を開催しました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、過去2か年は中止しておりましたが、今年度は感染防止対策を十分に講じた上で、対面での開催となりました。

3年ぶりの開催となった今回は、本部ならびに教室を代表して下田宏先生をお迎えし、九州支部からは会員12名が出席しました。



総会は能見支部長の挨拶で始まり、九州支部会員との久々の再会に対して喜びと感謝、この3年間における変化、また各支部の活動状況等について述べられました。

その後、下田先生から吉田・桂キャンパスの様子や、電気系教室の近況、近年の卒業生の進路などについてご紹介いただきました。

引き続き、蘭田さん(昭51年卒)から「再生可能エネルギーの有効利用活動」についてご講演いただきました。当講演では、2050年カーボンニュートラル

実現に向けて、ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)についてご紹介いただきました。

また、工藤幹事から令和3年度活動実績・会計の報告及び令和4年度活動計画・役員案についての説明があり、満場一致で承認されました。なお、

会計幹事 田中 仁志(平22年卒)が、新役員に就任しました。

懇親会は、出席者最年長の岡さん(昭35年卒)の乾杯の音頭で始まり、参加者全員酒を酌み交わしながら、終始和やかな雰囲気、昔話や近況報告などに花を咲かせました。

九州支部としては、引き続き感染防止対策を十分に図った上で、会員の意見を踏まえながら、今後の懇親会や昼食会を計画したいと考えております。

田中 仁志(平22年卒) 記



2022年度 洛友会東北支部総会報告

空梅雨で猛暑が続く2022年6月25日(土)、仙台市内の「ホテルモントレ仙台」で、東北支部総会が3年ぶりに対面で開催されました。東北支部からは3名の出席で行われました。

総会は井上支部長のご挨拶で始まり、議事として2021年度決算報告、2022年度予算案について幹事より説明があり、参加者全員の一致で承認されました。

また、2007年から長きにわたり支部長を務められてきた井上支部長が、本総会をもって勇退されることとなり、新たな支部長として1989年卒の伊藤篤氏が選出されました。

新たな会員が定着することもなく、年々総会出席者数が減り続ける状況ですが、今後も活動を継続していくことを確認しました。

総会後は久しぶりの再会を喜びながらの懇親会となり、各自の近況に始まり、最近ニュースとなった天の川銀河中心のブラックホール撮影成功に話題が及ぶなど、予定時間を大幅にオーバーして大変盛り上がりを見せました。

伊藤篤(平1年卒) 記

第117回関西支部

ゴルフ競技会報告

〈プレー状況〉

第117回関西支部ゴルフ競技会が令和4年5月21日(土)武庫ノ台ゴルフコースにて開催されました。

当日は曇りで終盤には小雨がぱらつくこともありましたが、プレーに影響する程でもなく、伊藤氏(昭和34年卒)の始球式でプレーを開始し、合計15名(うちシニア5名)が競技に汗を流しました。結果は以下のとおりです。

〈シニアの部〉

- 優勝 細田 純一郎(S 36年卒)
2位 吉田 豊彦(S 56年卒)
(一般の部)

- 優勝 西田 篤史(S 63年卒)
2位 藤岡 直人(H 3年卒)
3位 三木 穂高(H 26年卒)

〈懇親会〉

プレー終了後、下田氏(H 4年卒)の司会により、表彰式兼懇親会が開催されました。

懇親会は伊藤氏(S 34年卒)の乾杯のご挨拶からはじまり、表彰式では、優勝者に景品および優勝カップが手渡されたあと、細田氏(S 36年卒)・西田氏(S 63年卒)

より優勝報告を頂くとともに、関西洛友会ならびにゴルフ競技会の更なる発展を期待するコメントを頂きました。

〈お知らせ〉

洛友会関西支部では同窓生の懇親を深める機会として毎年2回(春・秋)にゴルフ競技会を開催しております。次回は令和4年10月15日(土)を予定しております。若い方も含めて、多数の皆様のご参加をお待ちしております。

〈連絡先〉

- 下田 一彦(H 4年卒)
三木 穂高(H 26年卒)
連絡先 070-2447-6142(三木)
nikihodaka@cskansai-td.co.jp



第117回 関西洛友会ゴルフ競技会 参加者集合写真

計報

Table with 2 columns: Name and Score. Includes names like 昭18 荷口康一郎 (3.8.6) and 昭4 山田勉 (3.12.10).

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。